136　No.16：本県商品ベトナムで好評－今後の販路拡大に期待
（平成 31 年 2 月 26 日）

【ＪＶＦの様子】

ベトナムのタンソンニャット国際空港に降り立ち、ターンテーブルで荷物を待っていると、次々と大きな段ボールが流れてくる。近くの人に尋ねると、「旅行に行ったベトナム人が大量の土産を買ってきたのだ」とのこと。食料品や衣類、化粧品、電化製品などさまざまなものを爆買いしてくる。ベトナム人は旅先での買い物が大好きなのだ。

ベトナムの人口は約９５５４万人。公用語はベトナム語だが、英語を使える人も多く、若者はみな優秀だ。２０１５～１７年の実質国内総生産（ＧＤＰ）成長率の平均は６．５％と非常に高く、製造業を中心に安定した経済成長を遂げており、富裕層に加え中産階級層も拡大している。

ベトナムで経済的中心地として栄え、「東洋のパリ」と呼ばれるホーチミン市。バイク渋滞の喧騒から離れ、静かで穏やかな雰囲気が漂うリートゥーチョン通りに面し、ベトナム家庭料理レストラン「Huong lai（フーンライ）」がある。

店のスタッフは元ストリートチルドレンや貧困家庭で育った子どもたち。フーンライは、そんな子どもたちに英語や接客サービス、ライフスキルを教え、自立を支援するためのトレーニングレストランだ。

那須町出身のオーナーの白井尋（しらいじん）氏は１９９７年、当地に留学。孤児院に深く関わるようになったことがきっかけで、２００１年に開いた。愛情を込めて育てたスタッフの接客はとてもハートフルで、どの料理も美味しく、優しい味であった。

こうした中、市内の公園で、１月１９、２０の両日、「第６回ジャパン ベトナム フェスティバル（ＪＶＦ）」が開催された。

本県からは、東京拉麺（足利市）、フタバ食品（宇都宮市）が出展し、ベトナム人に商品をＰＲした。東京拉麺の即席麺はあっという間になくなり、フタバ食品のアイスクリームも好調な売れ行きで、両社とも今後の販路拡大に期待が持てる２日間であったと思う。

パン・アキモト（那須塩原市）が現地に店を構える「ゴチパン」とタイアップした「Café Draphoe」もＪＶＦに出展した。この日もあんぱんやメロンパンなどが飛ぶように売れていた。

近年、ベトナムでは貧富格差の是正に向け、さまざまな対策が講じられている。「裕福な家庭に生まれた一部の人たちだけがずっと裕福な社会」ではなく、「日々仕事に打ち込めば好きな物が食べられる」、「旅先で好きな土産を買える」、そんな人たちが増えることを願ってやまない。

毛塚　隆弘(けづか　たかひろ)
栃木県香港事務所所長。
1993 年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017 年 4 月から現職。栃木市出身。